

< LD・ALP (IFCC法)新規受託開始のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、LDとALPにつきまして日本国内ではJSCC法(JSCC：日本臨床化学会)が用いられて参りましたが、国際的にはIFCC法(IFCC：国際臨床化学連合)が広く採用されています。

昨年、日本臨床化学会から「2020年4月1日より準備の整った施設からIFCC法への変更を開始する(移行期間1年)」との基本方針が発表されました。この方針に基づき、弊社では、本年4月より従来JSCC法と共に標記項目のIFCC法での受託を開始いたします。

取り急ぎご案内させていただきますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

《新規受託項目》

[2891] 乳酸脱水素酵素 (LD) 〈IFCC〉

[2892] アルカリホスファターゼ (ALP) 〈IFCC〉

総合検査案内37頁参照

《実施日》

2020年4月1日(水) 受付分より

従来JSCC法の【030】LD及び【031】ALPに関しましては、移行期間1年/2021年3月末をもって受託を中止いたします。尚、移行期間終了が近づきましたら改めてお知らせいたします。

乳酸脱水素酵素 (LD) 〈IFCC〉

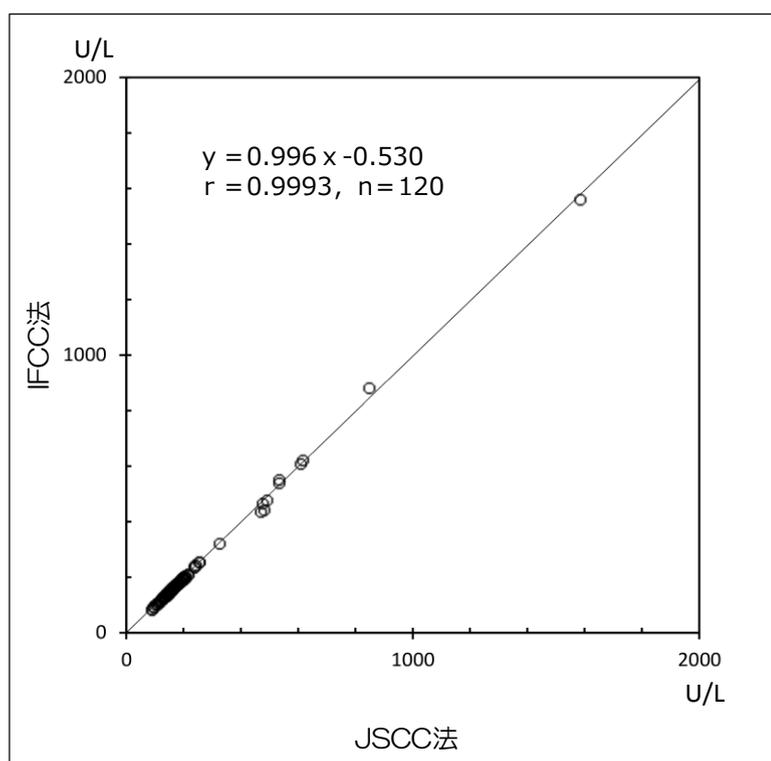
●検査要項

	IFCC法	JSCC法
項目コード	2891	030
項目名	LD 〈IFCC〉	LD
検体/保存	血清 0.1 mL / 冷蔵	同左
検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC標準化対応法
基準値 (単位)	124~222 U/L	115~245 U/L
所要日数	1~2日	同左
検査実施料/判断料	11点/144点 (生化学的検査 (I))	同左
備考	<ul style="list-style-type: none"> • [030]LD 〈JSCC法〉につきましては、2021年3月末をもって検査受託を中止させていただきます。 • IFCC法をご依頼の際は、総合検査依頼書の追加セット・項目欄に[2891] LD(IFCC)とご記入下さい。JSCC法でのご依頼は現状通りとなります。 	

●IFCC法の特徴

JSCC法はアイソザイムのLD5が相対的に高く測定されますが、IFCC法はLD1とLD5がほぼ同等に測定されます。
LD5の割合が高い症例ではIFCC法ではJSCC法より低値傾向を示します。また、この変更により測定値を海外と共有化することが可能になります。

●IFCC法とJSCC法の相関



(自社検討資料)

アルカリホスファターゼ (ALP)

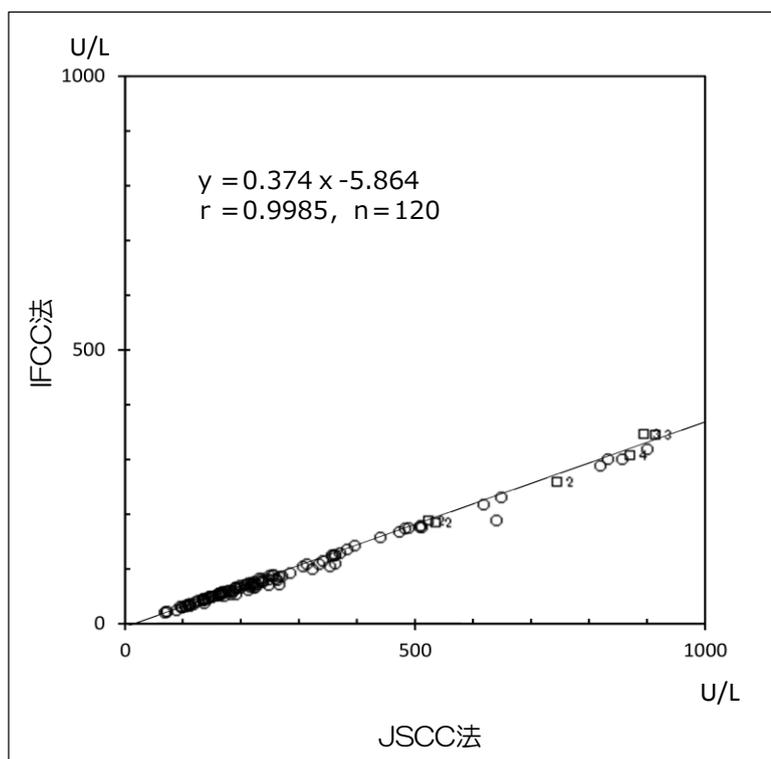
●検査要項

	IFCC法	JSCC法
項目コード	2892	031
項目名	ALP 〈IFCC〉	ALP
検体/保存	血清 0.1 mL / 冷蔵	同左
検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC標準化対応法
基準値 (単位)	38~113 U/L	104~338 U/L
所要日数	1~2日	同左
検査実施料/判断料	11点/144点 (生化学的検査 (I))	同左
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ [031]ALP 〈JSCC法〉 につきましては、2021年3月末をもって検査受託を中止させていただきます。 ・ IFCC法をご依頼の際は、総合検査依頼書の追加セット・項目欄に [2892] ALP (IFCC) とご記入下さい。JSCC法でのご依頼は現状通りとなります。 	

●IFCC法の特徴

IFCC法はJSCC法と比較して、小腸型ALPとの反応性が低く、胎盤型ALPとの反応性が高くなっています。血液型がB、O型で分泌型の方は健康人でも小腸型ALPが出現することがあり、JSCC法では臨床的意義が認められない高値を示す場合があります。IFCC法では疾患と無関係な上昇が軽減し、肝・骨疾患の臨床的意義が向上します。また、測定値を海外と共有化でき、国際的な治療指針を利用する場合や治験の際に利便性が向上します。

●IFCC法とJSCC法の相関



(自社検討資料)

《IFCC法を用いた測定値の取り扱いについて》

一般社団法人日本臨床化学会のホームページに掲載されている「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」の中から、一部抜粋して参考情報としてご案内致します。

●変更に関する注意点

(1)ALP

- ・測定値が現行の1/3程度の数値になります。
- ・変更前後の値の換算には限界があります。IFCC法に変更することで血液型B,O型では小腸型ALPを含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます。
- ・ALPアイソザイム試薬についてもIFCC法に対応した新しい処方のもので発売されますので、そのIFCC法に対応した試薬での測定が必要です。

(2)LD

- ・LD5優位検体では現行のJSCC法に対して低めの活性になります(LD5が50%の症例では測定値の差は20%未満)。

●換算係数について

(1)ALP

B,O型の検体の比率によって実測値に合致する換算係数を得ることは困難ですが、ほぼ肝型と骨型の検体と仮定した場合の換算係数は以下となります。

- ・JSCC法測定値からIFCC法測定値に換算：0.35倍
- ・IFCC法測定値からJSCC法測定値に換算：2.84倍

ただし、小腸型ALPや胎盤型ALPが増加する症例では、換算値は実測値から乖離しますので、ご注意ください。

妊婦の場合にも妊娠週数が増すごとに胎盤型の出現が増すため、上記換算係数を使用すると実測値との差が大きくなります。

(2)LD

換算せずそのまま測定値を使ってください。

一般社団法人日本臨床化学会のホームページには、IFCC移行に際し補足資料として下記の資料が掲載されていますのでご参照下さい。

「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」(2020年2月13日)

- ①ALP、LDの測定方法の変更に関するリーフレット
- ②ALP・LD測定法の変更について(医療従事者向け)
- ③ALP・LD測定法変更について(検査室実務者向け補足説明)
- ④ALP、LDの測定方法変更に関するQ and A (ver.2.0)

一般社団法人日本臨床化学会ホームページURL：<http://jscc-jp.gr.jp/>